

科目名	西九州探求(長崎学・佐賀学) I (地域文化系)		英語表記	Western Kyushu Studies I
科目番号	QSP-1	開講	講義名	担当教員
開講場所	QSP連携校	① オリエンテーション 西九州の魅力を探る ② 波佐見町のまちづくりと産業振興 ③ 肥前鳥居 ④ 地域資料のデジタルアーカイブ化による地域貢献—高田保馬関係文書の整理を通じて ⑤ 外国にルーツのある幼児の保育に関する研究(1)～質問紙調査から見る保育現場の実感と困り感～ ⑥ 肥前の焼き物について ⑦ 幕末・維新期の佐賀の歴史と誇りを後世に伝える ⑧ 肥前の歴史と文化(まとめ)		木村 勝彦(長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科・教授) 山路 学(長崎総合科学大学 総合情報学部・准教授) 野田 雄史(長崎外国語大学 外国語学部・教授) 吉野 浩司(鎮西学院大学 経済政策学科・教授) 下池 洸史朗(長崎短期大学 保育学科・助教) 伊藤 彰子(西九州大学短期大学部・非常勤講師) 青柳 達也(元佐賀女子短期大学 地域みらい学科・准教授) 松尾 弘毅(佐賀大学地域学歴史文化研究センター所属 ・西九州大学 非常勤講師)
区分	教養			
単位数	1単位			
開講期間	令和8年5月～7月			
曜日	木曜日			
時限	3限目			
開講時間	オンデマンド形式による開講			
授業定員	30人			
履修年次	1年次以上			
費用等	なし			
選考方法	書類選考			
その他 特記事項	学習支援システム(manaba)を利用して受講			
試験・評価方法	出席・レポート等により総合的に評価			
連絡先	長崎国際大学 教務課 TEL : 0956-39-2020(大学代表), Mail : kyomu@niu.ac.jp			

- [授業内容] ※講義の順番は、変更される場合があります。
- QSP設立の経緯と本科目設置の目的にも触れながら、長崎・佐賀の両県から成る「西九州」を学問的な問いの対象として「領域化」し、さまざまな角度から探求することの意義と魅力を概説する。この地域の大学・短期大学に学ぶ受講生に、地元への知的関心を抱いてもらうことが狙いである。
 - この授業では、波佐見町を題材に、陶磁器産業の再生や、企業連携、観光振興などによるまちづくりの実践を学ぶ。地域資源を活かした産業振興のプロセスを理解し、地方創生の視点を身につけることを目的とする。
 - 神社の入口に立つ鳥居はいくつかの様式があるが、佐賀には肥前鳥居という独特の形式のものがある。どのような特徴を持つのか、外形だけでなく、それ以外の部分にもある独自性を考察する。
 - 小城市三日月町出身の高田保馬が残した貴重な一次資料にふれることで、日本を代表する社会学者、経済学者と郷土佐賀との深い結びつきを学ぶ。あわせて近代の史資料の発見、保存、デジタル化による利活用などの実践例について知る。
 - 在留外国人の数は増加の一途をたどっており、保育の対象と考えられる乳幼児の数も増加傾向にある。本授業では、佐賀県、長崎県の幼稚園、保育所、認定こども園を対象として行ったアンケート調査を実施した結果を紹介し、外国にルーツのある子どもの保育の在り方について検討する。
 - 現在の佐賀・長崎県域にあたる肥前には、唐津・有田(伊万里)・波佐見など多様な焼物産地がある。これらの歴史について国際情勢をまじえながら説明し、将来にわたる技術・文化の継承に寄与する知識の獲得を目指す。
 - 幕末・維新期に佐賀が果たした役割を、主要な人物・技術・出来事を通して学ぶ講義です。激動の時代に佐賀が示した先進性と志を振り返り、現代に受け継ぐべき「地域の誇り」とは何かを考えます。
 - 肥前において多様な文化が醸成された背景として、原始時代から中世期までの歴史を総括する。さらに政治史や地政学的観点から、肥前の地域的特質を明らかにする。

科目名	西九州探求(長崎学・佐賀学) II (地域産業系)		英語表記	Western Kyushu Studies II
科目番号	QSP-2	開講	講義名	担当教員
開講場所	QSP連携校	① オリエンテーション 西九州地域の観光経済効果を算出しよう! ② 東シナ海と長崎・佐賀の海洋産業～歴史・現在・未来～ ③ 明治期西九州における鉄道建設 ④ 長崎における近代のキリスト教史から学ぶダークツーリズム ⑤ 外国にルーツのある幼児の保育に関する研究(2)～インタビュー調査から見る集団適応の過程～ ⑥ 西海捕鯨について ⑦ 演劇と地域振興～八賢人おもてなし隊に学ぶまちづくりのかたち～ ⑧ 肥前の歴史と文化(まとめ)		城前 奈美(長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科・教授) 松岡 和彦(長崎総合科学大学 工学部・教授) 藤本 健太郎(長崎外国語大学 外国語学部・准教授) 加藤 久雄(鎮西学院大学 総合社会学部・教授/同大学 地域総合研究所所長) 下池 洸史朗(長崎短期大学 保育学科・助教) 伊藤 彰子(西九州大学短期大学部・非常勤講師) 青柳 達也(元佐賀女子短期大学 地域みらい学科・准教授) 松尾 弘毅(佐賀大学地域学歴史文化研究センター所属 ・西九州大学 非常勤講師)
区分	教養			
単位数	1単位			
開講期間	令和8年10月～12月			
曜日	木曜日			
時限	3限目			
開講時間	オンデマンド形式による開講			
授業定員	30人			
履修年次	1年次以上			
費用等	なし			
選考方法	書類選考			
その他 特記事項	学習支援システム(manaba)を利用して受講			
試験・評価方法	出席・レポート等により総合的に評価			
連絡先	長崎国際大学 教務課 TEL : 0956-39-2020(大学代表), Mail : kyomu@niu.ac.jp			

- [授業内容] ※講義の順番は、変更される場合があります。
- オリンピックの経済効果や大阪万博の経済効果などが報道等でクローズアップされますが、そもそも経済効果とは何でしょう？ この経済効果の意味を理解するとともに、佐賀県や長崎県の観光による経済効果を算出する方法をマスターしていきます。
 - 長崎県・佐賀県は東シナ海に面し、古くから漁業や造船業を中心に海洋産業を発展させてきた。本講義では、地域がどのように海と関わり産業を築いてきたかを概観する。幕末に始まった造船業は近代重工業へと発展し、水産業は豊かな漁場と地形を背景に地域経済を支えてきた。現在は産業が多様化し、造船業は重工業として広がり、水産業は資源管理や輸出、次世代型養殖への取り組みが進む。また、潮流・風力を活用した洋上風力や潮流発電など「海洋エネルギー」が注目されている。新技術を受け入れてきたこの地域には、次世代の海洋産業を育てる力があり、本講義を通じて西九州の産業の歩みと未来を考える契機としたい。
 - 戦前に佐賀県から長崎県内にかけて敷設された2本の鉄道路線(長崎線・有明線)が必要とされた背景や、敷設に至るまでの経緯、さらには両県の経済活動に与えた影響について、歴史史料をもとに考えます。
 - 1873年のキリスト教禁制の高札の撤去まで、近代になっても禁教が続きました。五島列島でおこった明治初期におこったキリスト教弾圧事件を通じたダークツーリズム(苦しみと歴史を知り二度と同じ悲劇を繰り返さないための学びの旅)と一緒に考えます。
 - 在留外国人の数は増加の一途をたどっており、保育の対象と考えられる乳幼児の数も増加傾向にある。本授業では、外国にルーツのある幼児の保育をした経験がある保育者へのインタビュー調査の結果を示し、外国にルーツのある子どもの集団適応過程と支援の在り方と課題について検討する。
 - 近世中期以降、肥前を中心とする西海地域で展開した捕鯨業について説明する。主要な製品である鯨油の生産と販売のあり方から、近世社会の生活文化についても理解を深める。これにより鯨をめぐる多様な日本文化の継承について考察する。
 - 本講義では、幕末・維新八賢人おもてなし隊の活動を例に、演劇が地域の魅力発信や市民参加をどのように促すのかを学びます。文化活動がまちづくりに与える力を、実践事例を通して考える講義です。
 - 肥前の歴史的な産業として、対外交流による貿易があげられる。肥前各所には往来する外国使節の中継港があり、貿易に関係する事績が散見される。この回では、地域産業史の総括として、古代から中世期までの肥前の対外交流を取り上げ、日本全体の関係史の中に位置づける。